

60 WHO 国際分類ファミリーの最近の動向

研究所 福祉機器開発部 井上 剛伸

研究所 障害工学研究部 中山 剛

研究所 福祉機器開発部 石渡 利奈

1. はじめに

当センターは厚生労働省内に設置されている WHO 国際統計分類協力センターへの協力機関として、主に福祉用具の分野を中心として、WHO 国際分類ファミリーの改訂および普及に関する活動を実施している。本稿では、それらの活動を通じて収集した情報を基に、WHO 国際分類ファミリーの最近の動向について報告する。

2. 生活機能に関する動向

国際生活機能分類(ICF)は、毎年のように改訂が行われ、章や中間分類項目を含めた項目数は、発行当時 1,494 項目であったものが、2017 年版では 1,616 項目となっている。2017 年版での大きな改訂項目は、これまで WHO 国際分類ファミリーの派生分類に位置づけられてきた国際生活機能分類－小児・青少年版 (ICF-CY : International Classification of Functioning, Disability and Health for Children and Youth) との統合が行われた点にある。

もう一つのトピックは、国際疾病分類の第 11 回改訂版 (ICD-11) である。ICD-11 は、2018 年 6 月 18 日に WHO が公表し、2019 年の WHO 総会で勧告される予定である。この改訂の中で第 V 章として、生活機能評価に関する補助セクションが設けられ、生活機能に関連する項目が追加された。ここでは、WHO-DAS2.0 (WHO Disability Assessment Schedule) の 36 項目版と MDS (Model Disability Survey) ショートの二つの評価ツールを基にして、107 項目が掲載されている。今後、評価ツールや統計情報ツールとしての展開も考えられ、注視していく必要がある。

3. 福祉用具分野と ICF

福祉用具と ICF の環境因子に位置づけられ、生活機能に作用する重要な因子として位置づけられている。福祉用具の分類は、国際標準化機構 (ISO) で定められる ISO9999 福祉用具の分類と用語にて規定されている。ISO9999 は、2003 年に WHO 国際分類ファミリーの関連分類として登録されている。それ以来、ISO9999 の改訂グループは、ICF との整合性向上に向けて多くの作業を行ってきた。最新版の ISO9999:2016 では、第 1 レベルの分類については ICF の活動と参加の分類にほぼ合わせる形で構成されており、第 2 分類以下も含めて、ICF の用語になるべく合わせる形で、項目名や説明が記述されている。また、ICF の環境因子の構造と ISO9999 の第 1 分類の構造の比較も行っており、さらなる整合性の向上に関する議論を行っている。

4. おわりに

近年の障害やリハビリテーションへの関心の高まりに伴い、生活機能はさらに重要になっている。それに伴い、福祉用具に対する関心も世界規模で高まっており、今後の当センターでのこれらの取り組みはさらに重要性を増すと考えられる。